

## 4月の特集 ガーデニングの基礎知識（前編）



### 土作り

苗を買う一週間くらい前に土づくりをしましょう。その手順は、

①土を掘り起こし固まっている土をほぐします

植えつけるものによって掘る深さは変化し、樹木や宿根草の場合は根底に合った深さにします

②土壌改良剤を撒き、掘り返した土とよく混ぜる

これは苦土石灰、珪酸塩白土、腐葉土、堆肥、砂などです

苦土石灰、珪酸塩白土は撒く量を考えましょう（商品の裏の使用説明書を参考に）

腐葉土、堆肥は目分量で適当に撒いても平気です。乾燥を好むものは砂を多めに混ぜます

すべてを撒く必要はなく、植物や土の状態で判断します

③もう一度土を混ぜ合わせます

十分なじんできたら植えやすいようにならしておきましょう。これで完了です！

一年草の草花には、必要に応じて土壌改良剤と一緒にマグアンプKなど（根にふれても問題ない肥料）を混ぜます

有機肥料（油粕や骨粉、鶏ふんなど）を撒く場合は、根に直接当たらないように離して撒きます

樹木の場合も、必要なら少し広く掘って有機肥料を根が当たらないところに撒きます

鉢の場合は市販の培養土を買ってきます

最近は優れたものが多いのですが、植える植物に合った土を選びます

あまりに安いもの（例えば20リットル150円程度）は買わないことが大事です。



## 苗の購入

販売されている苗にはいくつか種類があります

### ①地掘り苗：

根がそのままの状態になっており、水ゴケなどで根が乾燥しないように包まれているもの  
果樹や樹木、宿根草に多い

### ②根まき苗：

網や縄で根底が包まれているもの。樹木の大株に多い

### ③ポット苗：

ビニールのポットに植えられた苗。一般的な草花に多い



### ④球根や塊茎：

休眠してる状態で売られているもの

パンジーなど草花の場合はひょろっと長くなったものではなく、ある程度小さくても株が引き締まって節が短く分枝の多いものを選ぶとよいでしょう

また、わかりにくいのですが、根が回りすぎて底が白くなってしまったようなものはよくありません  
最近では、それを防いでいるポット苗も出回っています

球根の場合は大きさだけでなく、よく締まったものを選びます

芽が傷んでないか確認しましょう。傷んでいると芽が伸びないこともあります

## 植え付け

根が露出している地掘り苗の場合、水苔などのよけいなものを取りなるべく根を広げるようにして植えつけましょう

網や縄で根鉢が作られたものは、根元部分のきつくなってしまう所以外はそのまま植えてもかまいません。網や縄はそのまま土に帰ります。気になるようだったら外しておきます。

ポット苗は根が回りすぎていたり、苗の土が植える土と性質が異なる場合は、多少根底をほぐしてやります。ただし、根を切られるのを嫌うものもあるので注意します

ポット苗は少し乾かしぎみにしてから植え替えを行うと作業がしやすく根を傷めません

どれも根鉢よりも少し大き目の穴を掘って植えつけます



ここで注意するのは

- ① あまり深植えしない
- ② 植え付け後水をたっぷり与える
- ③ 鉢植えの場合はいきなり大きなサイズの鉢にせず、根鉢に合った鉢（現状維持の場合）か一回り大きいぐらいの鉢（大きくする場合）を用意することです

水を与えた後、土が落ち込んでしまうようなら根に土が回っていない証拠なので、土を根の間に入るように串などで刺してしっかり土がいきわたるようにします

鉢植えの場合、軽石は必ず入れなければならないようになっていますが、あまり深くない鉢に水はけのよい用土で植えている場合は特に必要ありません

深鉢の場合は底に水はけ改善のため軽石を入れます（深さの10分の1～2程度）

植え付けの際、樹が1mを超えるようでしたら支柱を立てましょう  
風で倒れにくくなるだけでなく、姿勢もよく育ちます

アブラムシやコナジラミなどに弱い草花には、あらかじめオルトラン粒剤をパラパラと根元に撒いておきましょう。1ヶ月くらいはもちます。

## 1 球根の植え付け

まず、その球根の植え付けの適期を知っておきましょう  
多少ずれてもかまわない場合がありますが、花が咲かなかったり腐敗することもあります

球根の植え付けの深さは、庭植えの場合は球根の高さの3倍程度を目安にしますが、土の中の莖にも根が張るユリなどは25～30cmぐらいの深さに植えつけます

鉢植えの場合は球根の高さの1.0～2倍程度（あまり深くすると根が張れないので）。  
深植えのユリなどでも18～20cm程度で十分です

一部の球根や塊莖の中には深植えを嫌うもの（ジャーマンアイリス・アマリリスなど）があるので確認しましょう。

植え付けの間隔は、一年草扱いにするならかなりの密植でもかまいません  
来年も咲かせたいなら、球根の幅1.5～2.5倍を目安にします。

## 2 タネまき

類によってはタネからの方が安上がりで簡単なものもあります  
初心者の方もぜひタネから育ててみてはいかがでしょうか

タネまきの方法は直まきと箱まき、ポットまきがあります

直まき：

花壇や鉢の土に直接まく直まきはもっとも簡単な方法です  
タネが大きめのものはだいたい直まきもできると考えてもらってもいいでしょう  
コスモスやヒマワリ、アサガオ、スイートピーなどが代表的です  
またポピーのように移植が苦手なものも直まきが向いています

直まきは土づくりをしたところに、指やわりばしなどで穴やすじを作ってまきます  
やや細かいタネはばら撒いてすき込んでもよいでしょう

タネ～育苗期間は乾かし過ぎないようにし、必要なら水を与えます

箱まき&ポットまき：

両者は基本的に同じで、定植する場所と違うところで育苗を行います

植えかえ回数が箱まきが2回で、ポットまきは1回です

細かいタネや底面吸水で管理したい好日性のタネに向いています

また、性質が弱く立ち枯れをおこしやすいものも直まきは避けます



箱まきやポットまきは、清潔なタネまき用土（ピートモス主体の水もちのよい土）を入れたトレイやポリポットに点まきかばら撒きにします。ピートモスで出来たトレイも市販されています

上から水を与えるとタネが散らばりやすいので、水は底面から与えます。苗が出るまでは常に浅く水を入れて乾かさないようにします

苗が出揃ったら底面吸水の水を抜き、乾く前に与えるスタイルに切り替えます  
箱まきは苗が大きくなったら順次ポットに移植します。

タネ～育苗期間中は水を切らさないことが大切です  
日光を好ものは必ずよく日にあて丈夫な苗をつくります



葉同士が重なり合うようになったら、よく締まった苗を選んで早めに間引きを行います  
これが遅れると苗が弱々しく育つ原因になるのでためらわないようにします

一部のタネには光に当たると発芽が促進される好光性のものと、光があると発芽が抑制される嫌光性のものがあります。好光性のものには覆土はしないか薄く、嫌光性のものはしっかり覆土します  
大体はタネ袋に書かれていますが、不明なものはググルと通常は出てくるので心配なら参考程度に調べておきます

好日性：プリムラ、サイネリア、インパチェンス、トルコギキョウ、コリウス、ペチュニアなど  
嫌日性：デルフィニューム、ルピナス、ニゲラ、ニチニチソウなど

秋まきのタネで寒さに弱いものは、冬の管理が難しいのでタネまきに慣れてからにしましょう！

*自分の好きなお花の苗やタネを植えて育てて、それがキレイに咲いたら、とても感動しますよ！*

*これからの季節は、お花を育てるのには最高の季節です。ぜひ、お花作りに挑戦してみてくださいね！*